

内水面試験場コラム



 $\underline{\texttt{https://www.pref.kanagawa.jp/docs/a4y/koramu/2022koramu.html}}$

令和7年11月8日

ちょうかくちょうさ **釣獲調査でみられたヤマメの行動**

ヤマメは全国的に養殖魚の放流がなされており、これらと交雑のない天然の在来ヤマメは貴重です。内水面試験場では、これまでの研究でたんざからいとつかの渓流域で在来ヤマメの生息を確認しています。このたんざわざいらい丹沢在来ヤマメには体側のパーマーク(小判型の斑紋)や小黒点が多いこと、少数の朱点があるなどの外見的な特徴があります。

この貴重な丹沢在来ヤマメを人工的に増やそうとすると、親魚が小型で採卵数が少なく量産化が困難という課題がありました。そこで、丹沢 ざいらい なが と抱卵数の多い養殖ヤマメの雌(写真2)を交配したところ、丹沢在来ヤマメの特徴を残した飼育のしやすい半天然ヤマメのサルションを表現した。

調査に用いた半天然ヤマメおよび養殖ヤマメは、いずれも内水面

こけんじょうで飼育された個体です。飼育してみると養殖ヤマメは、人が近づくと餌を求めて寄ってくる習性がありますが、半天然魚は警戒心が強く、
かくまでもとの気配に対して隠れる傾向があり、寄ってくることはほとんどありません。

私は渓流釣りの経験が少ないのですが、釣獲試験(写真3)をしてみると、放流後の養殖ヤマメの中には人影を恐れず、釣り人が通過した 造べでに釣られたり、仕掛けの餌ではなく目印に反応して食いつく個体もおり、これが釣獲につながる場面もありました。一方で半天然ヤマメはなかなか釣れません。

これら調査の結果、半天然ヤマメは養殖ヤマメに比べて釣られにくく、また逸散せずに近くに残存する傾向が確認されました。この特性は、自然がたますの適応力や警戒心の高さを示しており、自然繁殖への寄与も期待されます。

簡単には釣れない丹沢在来ヤマメを由来とする半天然ヤマメを釣り場に活用することで、釣りの上級者にとって魅力的なターゲットとなり、釣り人の増加が見込まれます。これにより、放流を行う漁業協同組合の遊漁料収益の向上にもつながると考えられます。

さらに、この半天然ヤマメを食材として養殖・提供することで、いたよくてん しゅくはくしせっ ちいき かんこうぎょう れんけい かのう ちいきけいざい飲食店や宿泊施設など地域の観光業との連携が可能となり、地域経済

の活性化にも貢献することも期待されます。

ないすいめんしけんじょう しゅにんけんきゅういん あいかわ ひであき 内水面試験場 主任研究員 相川 英明



写真 1 丹沢在来ヤマメ (パーマークや小黒点が多く、少数の朱点が有る)

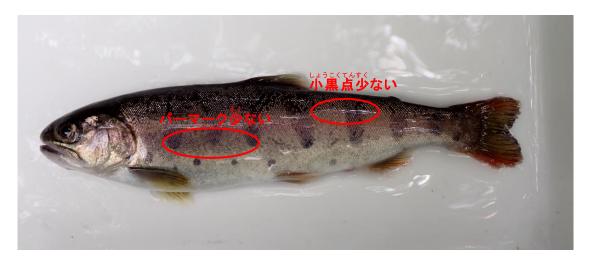


写真2 養殖ヤマメ♀ (パーマークや小黒点が少なく、朱点が無い)



しゃしん ちょうかくちょうさ っ 写真3 釣獲調査で釣れたヤマメ